

パラリンピック競技応援校

目的・ねらい

指定校がパラリンピック競技を観戦することや実際に体験すること、また、競技大会の運営ボランティアとして参加すること等を通じて、児童・生徒の障害者スポーツに対する興味・関心の向上、理解の促進を図るとともに、取組成果を他校へ普及・啓発する。

取組・活動内容

①実施時期

平成29年度～令和3年度

②実施規模

都内公立学校各年度10～50校

③実施競技

- | | | | |
|---------------|------------|--------------|-------|
| ・シッティングバレーボール | ・車いすラグビー | ・5人制サッカー | ・ボッチャ |
| ・車いすフェンシング | ・陸上競技 | ・トリアスロン | |
| ・ゴールボール | ・パワーリフティング | ・車いすバスケットボール | |

④取組・活動内容

- ・各応援校毎にブラインドサッカー、ボッチャ、5人制サッカーなどの競技観戦等を行った。
- ・また観戦の際には熱中症対策グッズやストラップを付けるなど、会場で応援するかのような雰囲気 연출する工夫を施した。
- ・その他年間活動計画の作成、競技大会で運営ボランティア、競技の理解・啓発に関する様々な取組を行った。

本取組・活動の成果

- 競技を観戦した生徒からは、「まるで目が見えているみたいなプレーだった。」など感嘆のコメントがあり、競技の観戦を通じてパラリンピック競技のすごさや素晴らしさを直接感じられたことが分かった。「競技観戦に行けなかったのは仕方がないけど、皆で応援できて、家で見るのとは違った。」など、新型コロナウイルスの影響もあり競技会場での直接的な競技観戦はできなくても、子供たちの心に残るような体験を創出することができた。
- 「障害のある人は少し遠い存在だと思っていたけど、街で見たら声を掛けてみたい」など、パラリンピック競技応援校を通じて児童・生徒の障害者理解が進んだ。

活動の様子



パラスポーツ交流大会

目的・ねらい

体験を通してパラスポーツの普及・啓発を図り、障害者理解やスポーツ志向の向上を目指す。また都立特別支援学校と都内公立小・中・高等学校との交流を一層推進する。

取組・活動内容

①実施時期

平成29年度～令和元年度

②実施規模

都内公立学校の参加希望校

③取組・活動内容

- ・都立特別支援学校と都内公立小・中・高等学校の児童・生徒の交流及びパラスポーツの普及・啓発を目的に、「東京都公立学校パラスポーツ交流大会」として、フロアバレーボール大会及びボッチャ大会を開催
- ・大会当日、都立高校生が、大会運営やチームのサポートを行うボランティアとして参加
- ・都立工業高校の生徒が、大会で使用する横断幕や競技用補助具(ランプ)を製作し、大会を支援

本取組・活動の成果

- 大会を通じて特別支援学校の生徒との交流の促進や、スポーツの魅力、協力することの大切さなどを子供たちは学ぶことができた。

「他の学校だったけど、仲間なので、意思が伝わって良かったです」(特別支援学校児童)

「特別支援学校の人たちと協力して楽しかったです」(小学校児童)

「こうした形でパラリンピックの普及活動に携われて嬉しい」(交流大会で使用したボッチャ用器具作成校生徒)

「楽しく使ってもらえて、安全に使えるように作っています」(交流大会で使用したボッチャ用器具作成校生徒)

活動の様子



ボッチャ交流行事推進事業

目的・ねらい

障害の有無にかかわらず、誰もが楽しめるパラスポーツとして多くの学校が取り組んでいるボッチャを通じた交流行事を推進することにより、地域全体で幼児・児童・生徒の障害者理解の促進に取り組むとともに、共生・共助社会の実現を図る。

取組・活動内容

①実施時期

平成31年度、令和2年度、令和3年度 計3回実施

②実施規模

各年度2地区

③取組・活動内容

・毎年、区部から一地区、市部から一地区を指定した。地区ごとに、幼児・児童・生徒・地域住民等がボッチャを通じて交流する行事を実施し、地域全体で幼児・児童・生徒の障害者理解促進に取り組んだ。具体的には、地域内の学校を集めてボッチャ体験、校内ボッチャ交流大会（講習会を合わせて実施）や、地域内学校と特別支援学級・地域内施設との交流会を実施した。東京都教育委員会は実施費用やボッチャ用具の貸出を支援した。

本取組・活動の成果

- パラスポーツであるボッチャを通じた交流により、障害者理解を深めるとともに、パラスポーツへの興味・関心を高めることができた。子供からは、「誰もが楽しめるスポーツですごく楽しかった」「もっとボッチャをやりたい」「校内でボッチャ大会をしたい」などの、感想が寄せられた。
- 異校種での交流活動の実施により、子供が互いに学び合うことで、共生・共助について考える機会となった。
- 高い運動能力に依存せずに、様々な人が活躍できるスポーツであるボッチャを通じた活動により、普段運動が苦手な子供にも、スポーツに対する自己有用感を与えることができた。
- ボッチャセットの貸出により、地域内の各学校・園が活用することができ、地域全体でのボッチャ体験を実施した。

活動の様子



パラスポーツ指導者講習会

目的・ねらい

オリンピック・パラリンピック教育における障害者理解を一層充実させるため、パラスポーツの競技団体と連携し、教員がパラスポーツを体験するとともに、歴史・意義・ルール・指導法等を学び、学校の教育活動において指導を行うことができる資質・能力を身に付ける。

取組・活動内容

①実施時期

平成28年度、平成29年度、平成30年度、平成31年度、令和3年度

②実施規模

都内全公立学校・園の教員の希望者(各年度100～300名程度)

③取組・活動内容

- ・該当のパラスポーツの歴史や意義、ルールなどを学ぶ講義
- ・競技団体の選手や講師によるデモンストレーション
- ・指導法、指導上の留意点を理解するための競技体験

④実施競技

<パラリンピックスポーツ>

ボッチャ、5人制サッカー、パワーリフティング、シットイングバレーボール、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすラグビー、ゴールボール

<障害者スポーツ>

フライングディスク、フロアバレーボール、パラディスボール

計11競技 総受講者数(延べ)1,112名

本取組・活動の成果

- 参加した教員からは「とても丁寧な指導で分かりやすかった。」「声を掛ける大切さが分かった。→街中で視覚障害のある人に積極的に声を掛けたい。」「ブラインドの気持ちが体験でき、的確な言葉での補助が大切だと感じた。」といった感想があり、今後の指導につながる示唆に富んだ機会となった。

活動の様子

